

今西一名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

今西一先生は、1972年に龍谷大学文学部をご卒業後、立命館大学文学研究科で日本史学の研究者としてのキャリアを開始され、1990年に京都大学から農学博士の学位を取得されました。その後、大阪外国語大学講師を経て、1992年4月に本学経済学科の日本経済史担当の助教授に就任し、1994年10月教授に昇任、2012年3月に定年退職、さらに2年間特任教授を務められ、22年の長きにわたり本学の教育研究に多大の貢献をなされました。この間、1996年から1997年にかけて韓国忠南大学校において在外研究にあたられました。

私にとって今西一先生の印象は、飽くことを知らない精力的な研究者としての姿です。研究は常に膨大な資料収集と現地調査に裏打ちされ、研究室に収まらない行動をする研究者でもありました。先生のご専門は日本史ですが、ご関心は非常に広く、実に多岐にわたる研究を成し遂げられました。とりわけ、差別やマイノリティーの視点からの歴史学及び地域史の研究において多大の業績を残されました。それらをすべて挙げることはできませんが、たとえば、『近代日本成立期の民衆運動』（柏書房1991年）、『近代日本の差別と村落』（雄山閣1993年）、『国民国家とマイノリティ』（日本経済評論社2000年）、『文明開化と差別』（吉川弘文館2001年）、『近代日本の地域社会』（日本経済評論社2009年）などがあります。雑誌・紀要等に掲載した論文・評論等の数は枚挙にいとまがありません。先生の科学研究費助成金（文部科学省）による研究活動も特筆に値するものです。2009年から2016年にかけて、他大学の研究者とともに、アジアにおける日本帝国の動向とその影響を受けた民衆の歴史の研究を行い、その成果の一部は編書『北東アジアのコリアン・ディアスポラ：サハリン・樺太を

中心に』(小樽商科大学出版会2012年)として出版されました。

教育の面では、日本経済史のほかに、経済史、地域経済史も担当され、先生の講義やゼミにはいつも学生が集まり、学部、大学院を通じて多くの学生を教育されました。また、平成7年には学科長に就任、学内運営に貢献されました。

今西一先生の研究は、止むことなく退職後も続くことと思います。これからも、健康に留意され益々のご活躍を期待するとともに、私どもへのご指導をお願いする次第であります。